

# 大阪健康福祉短期大学の「3つのポリシー」

大阪健康福祉短期大学は建学の精神と教育理念に基づき、以下の3つのポリシーを示します。

## 【介護福祉学科】

### 介護福祉学科ディプロマ・ポリシー

介護福祉学科は、こころとからだの健康やいのちを守り、社会福祉の充実をはかる人材の育成を教育目標としており、必要とされる授業科目の単位を含め、62単位以上を取得したものに対して短期大学士の学位（介護福祉学）を与えます。

1. 介護や福祉を学ぶことを通して、豊かな人間性と社会性を身につけている。
2. 客観的な事実から物事を考え、判断できる。
3. 介護や福祉に対する深い関心を持ち、主体的に学び、自ら考えられる力を身につけている。
4. 人権を尊重し、人間の尊厳を護るための態度を身につけている。
5. コミュニケーションの基礎となる発信、伝達、記録の技法を身につけている。

### 介護福祉学科カリキュラム・ポリシー

本学科のカリキュラムは、本学科のディプロマ・ポリシーを実現するために、特に次のような点に留意して編成しています。

1. 社会の成り立ちを深く理解できるよう、介護や福祉に関連する幅広い科目を提供する。
2. 収集した情報から、第三者が理解できるような具体的かつ論理的な思考と説明が可能となるよう、演習授業や実習を重視する。
3. 演習やフィールドワーク、実習において、幅広く情報を収集し、個人を全人的に理解することを体験する。
4. 人権尊重や自立・自律、自己選択、自己実現を支援する視点に立った科目を系統的に複数配置する。
5. 少人数のゼミ、演習、フィールドワークを通じて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を育む。

### 介護福祉学科アドミSSION・ポリシー

本学科は、介護や社会福祉に関する学問を修め、介護福祉士国家資格の取得を目指す学科です。それらを鑑み、以下にアドミSSION・ポリシーを示します。

1. 「介護」や「福祉」について自ら考えようとする人
2. 社会の成り立ちや自らの生活について、興味をもっている人

3. 自ら進んで学ぶ意欲がある人
4. 人間に興味をもっていて、他者とかかわることができる人
5. 日常生活において他者に情報伝達したり、他者からの情報を受け取る能力を有している人

高校の授業や課外（クラブ）活動等の中で、自分なりに意欲・関心がもてるものに取り組み、アドミッション・ポリシーで掲げている各学力を身につけてきた学生を求めています。また、入学後も同様に、自ら意欲・関心がもてるものを見つけ、さらに学力を伸ばそうとする学生を求めています。

入学選抜においては面接を重視し、対話を通じて、アドミッション・ポリシーで示している各学力の評価を行います。また、受験の形態に応じて、面接とともに小論文や現代国語の試験も実施し、多角的に評価を行います。その中で、受験者自身のこれまでの体験や、そこから得られた学びの有無、自らの考えの在り方を評価します。なお、本学入学にあたっては、事前に、インタビューを通じて高齢者や障がい者の暮らしを学ぶことを求めています。

## 【子ども福祉学科】

### 子ども福祉学科ディプロマ・ポリシー

子ども福祉学科では、保育と幼児教育を中心に、子育てにかかわる社会福祉の充実に貢献できる人材の育成を教育目標としています。学習を通して以下の目標を達成し、必要とされる授業科目を含め 62 単位以上を習得したものに対して短期大学士の学位（教育学・保育学）を与えます。

1. 子どもの育ちを支える人となる
  - 専門的知識に基づき、子どもの最善の利益を尊重することができる
  - 専門的知識と技能の下に、子どもの発達を保障することができる
  - 保育者として子どもの豊かな心を育む
2. 保護者の子育てを支える人となる
  - 子どもと保護者の状況を理解することができる
  - 保護者とより良い関係をつくりながら子育てを支える
3. 子どもと子育てにやさしい社会をつくる人となる
  - 社会の仕組みを理解する
  - 社会のあり方について考える・実践する
4. 豊かな人間性・倫理性・共同性をもつ人となる
  - 社会人としての知識・教養やコミュニケーションと人間性、科学的・論理的に考え、表現する力を身につける
  - 文化・芸術・人間性・感性と表現力を身につける

### 子ども福祉学科カリキュラム・ポリシー

子ども福祉学科のカリキュラムは、上記のディプロマ・ポリシーを実現するために、特に以下のような方針のもとに編成されています。

1. 「子どもの育ちを支える」ために必要な力を身につける
  - 保育や子どもの発達に関する基礎的な技能・知識に関する科目を、(保育実習の配当時期と関連させて) 実習前に学ぶもの、実習を踏まえて深める内容を吟味して配置する
  - 講義・演習科目で得た知識・技能を実習及びゼミで実践的に深めることを重視する
2. 「保護者の子育てを支える」ために必要な力を身につける
  - 「子ども」「子育て」に関する知識を土台として、さらに保護者を支援できる技術・態度を学ぶ
  - 少人数での演習、グループワーク、フィールドワーク等実践的な学びにつながる内容を重視する
3. 「子どもと子育てにやさしい社会をつくる」ために必要な力を身につける
  - 福祉・教育に関する知識・人権や子どもの権利について学ぶことで、社会の成り立ちについて理解し、考える力を養う
4. 人間性・倫理性・共同性を育てる
  - 社会人としての知識・教養を身につけ、表現する力を養うための科目を配置する
  - 初年次には人権を尊重する態度や福祉にかかわるものの倫理性について学ぶ科目を配置し、卒業年次にはそれを総合させ、深める科目を配置する
  - 様々な科目の中で、成果発表や共同学習の機会を取り入れ、それらの取り組みを通して、企画・発表する力と他者と共同する態度を育てる

## 子ども福祉学科アドミッション・ポリシー

本学科では、保育士資格・幼稚園教諭二種免許状の取得を目指します。本学の教育理念を理解し、学修を通して以下の目標を達成しようとする意欲のある学生を求めています。

1. 子どもが好き、人間が好きで、いろいろな人とかかわりたい。
2. 誰かのために、自分を生かしたい。あてにされる自分を発見したい。
3. 人間のくらしや社会に関心があり、さらに理解を深めたい。
4. いろいろな人と力を合わせて、子どもと一緒に自分も成長したい。

上記の目標に向かい、入学前の自分の生活や経験について振り返り、他者にそのことを伝える努力ができる学生を求めています。また、入学予定者には入学前教育に参加し、学修の準備を行うことを求めます。さらに入学後には、目標達成のための努力を惜しまない学生を求めます。

入学選抜においては、自分の経験を振り返り、そこでの学びを伝える力について面接を中心に評価を行います。受験形態によっては小論文・国語も実施し、多様な学生の受け入れを目指します。

## 【保育・幼児教育学科】

### 保育・幼児教育学科ディプロマ・ポリシー

保育・幼児教育学科では、保育と幼児教育を中心に、子育てにかかわる社会福祉の充実に貢献できる人材の育成を教育目標としています。学習を通して以下の目標を達成し、必要とされる授業科目を含め 62 単位以上を習得したのに対して短期大学士の学位 (保育学・教育学) を与えます。

1. 子どもの育ちを支える人となる
  - 専門的知識に基づき、子どもの最善の利益を尊重することができる
  - 専門的知識と技能の下に、子どもの発達を保障することができる
  - 保育者として子どもの豊かな心を育む
2. 保護者の子育てを支える人となる
  - 子どもと保護者の状況を理解することができる
  - 保護者とより良い関係をつくりながら子育てを支える
3. 子どもと子育てにやさしい社会をつくる人となる
  - 社会の仕組みを理解する
  - 社会のあり方について考える・実践する
4. 豊かな人間性・倫理性・共同性をもつ人となる
  - 社会人としての知識・教養やコミュニケーションと人間性、科学的・論理的に考え、表現する力を身につける
  - 文化・芸術・人間性・感性と表現力を身につける

## 保育・幼児教育学科カリキュラム・ポリシー

保育・幼児教育学科のカリキュラムは、上記のディプロマ・ポリシーを実現するために、特に以下のような方針のもとに編成されています。

1. 「子どもの育ちを支える」ために必要な力を身につける
  - 保育や子どもの発達に関する基礎的な技能・知識に関する科目を、(保育実習の配当時期と連関させて) 実習前に学ぶもの、実習を踏まえて深める内容を吟味して配置する
  - 講義・演習科目で得た知識・技能を実習及びゼミで実践的に深めることを重視する
2. 「保護者の子育てを支える」ために必要な力を身につける
  - 「子ども」「子育て」に関する知識を土台として、さらに保護者を支援できる技術・態度を学ぶ
  - 少人数での演習、グループワーク、フィールドワーク等実践的な学びにつながる内容を重視する
3. 「子どもと子育てにやさしい社会をつくる」ために必要な力を身につける
  - 福祉・教育に関する知識・人権や子どもの権利について学ぶことで、社会の成り立ちについて理解し、考える力を養う
4. 人間性・倫理性・共同性を育てる
  - 社会人としての知識・教養を身につけ、表現する力を養うための科目を配置する
  - 初年次には人権を尊重する態度や福祉にかかわるものの倫理性について学ぶ科目を配置し、卒業年次にはそれを総合させ、深める科目を配置する
  - 様々な科目の中で、成果発表や共同学習の機会を取り入れ、それらの取り組みを通して、企画・発表する力と他者と共同する態度を育てる

## 保育・幼児教育学科アドミッション・ポリシー

本学科では、保育士資格・幼稚園教諭二種免許状の取得を目指します。本学の教育理念を理解し、学修を通して以下の目標を達成しようとする意欲のある学生を求めています。

1. 子どもが好き、人間が好きで、いろいろな人とかかわりたい。
2. 誰かのために、自分を生かしたい。あてにされる自分を発見したい。
3. 人間のくらしや社会に関心があり、さらに理解を深めたい。
4. いろいろな人と力を合わせて、子どもと一緒に自分も成長したい。

上記の目標に向かい、入学前の自分の生活や経験について振り返り、他者にそのことを伝える努力ができる学生を求めています。また、入学予定者には入学前教育に参加し、学修の準備を行うことを求めます。さらに入学後には、目標達成のための努力を惜しまない学生を求めます。

入学選抜においては、自分の経験を振り返り、そこでの学びを伝える力について面接を中心に評価を行います。受験形態によっては小論文・国語も実施し、多様な学生の受け入れを目指します。

## 【地域総合介護福祉学科】

### 地域総合介護福祉学科のディプロマ・ポリシー

学習を通して以下の目標を達成し、必要とされる単位を習得したのに対して短期大学士の学位（介護福祉学）を与えます。

1. 介護や福祉を学ぶことを通して、豊かな人間関係と社会性を身に付けている。
2. 客観的な事実から物事を考え、判断できる。
3. 介護や福祉に対する深い関心を持ち、主体的に学び、自ら考えられる力を身に付けている。
4. 人権を尊重し、人間の尊厳を護るための態度を身に付けている。
5. コミュニケーションの基礎となる発信、伝達、記録の技法を身に付けている。

### 地域総合介護福祉学科のカリキュラム・ポリシー

地域総合介護福祉学科のカリキュラム（教育課程）は、上記のディプロマ・ポリシーを実現するために、特に以下のような方針のもとに編成されています。

1. 社会の成り立ちを深く理解できるよう、介護や福祉に関連する幅広い科目を提供する。
2. 介護の必要な人の尊厳が護られた生活を実現するために、正確な情報分析に基づいて、最善の支援について判断することが出来るよう、演習授業や実習を重視する。
3. 講義、演習、フィールドワーク、実習を通して、介護福祉に関する社会的課題を客観的に把握し、科学的に分析することを体験する。
4. 演習、フィールドワークを通して、豊かな社会を実現するため、人や地域社会が持つ力を高め、新た

な価値や技能を創造することができる。

5. 人間の存在の価値とその尊厳の保持と自己実現を支援する視点に立った科目を系統的に複数配置する。

## 地域総合介護福祉学科のアドミッション・ポリシー

本学科は、介護や福祉に関する学問を修め、介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指す学科です。本学の教育理念を理解し、学修を通して以下の目標を達成しようとする意欲のある学生を求めています。

1. 「介護」や「福祉」について自ら考えようとする人
2. 社会の成り立ちや自らの生活について、興味をもっている人
3. 自ら進んで学ぶ意欲のある人
4. 人間に興味をもっていて、他者とかかわることができる人
5. 日常生活において他者に情報伝達したり、他者からの情報を受け取る能力を有している人

高校の授業や課外（クラブ）活動等の中で、自分なりに意欲・関心がもてるものに取り組み、アドミッション・ポリシーで掲げている学生を求めています。また、入学後も同様に、自ら意欲・関心がもてるテーマを見つけ、介護福祉に対する探究心を持ち、介護福祉分野の未来を創造していく意欲のある学生を求めています。

入学者選抜においては、高等学校での学習や課外活動を通して身に付けた「知識・技能」、それを基礎とした「思考力、判断力、表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」と、介護福祉を学ぶことに対する意欲について総合的に評価します。

従って、本学科入学にあたっては、介護福祉の対象者（高齢者や障がい者）の暮らしや思いについて書かれている著書や、対象者への聞き取り等を通して、その実態に触れておくことを勧めます。

# 大阪健康福祉短期大学アセスメントポリシー

学習成果の評価に関する方針を、下記のように定める。

## 機関レベル

学生の志望進路（就職率、資格取得率、資格を活かした専門領域への就職率、進学率）から、学修成果の達成状況を測る。

## 教育課程レベル（学科）

各学科所定の教育課程における資格・免許の取得状況、卒業要件達成状況（単位取得状況、GPA）から、教育課程レベルでの学修成果達成状況を測る。

## 科目レベル

シラバスに定められた成績評価に基づく評価および授業アンケートなどから、科目ごとの学習成果の達成状況を測る。

検証方法は、下記の通りとする。

	入学前・入学時 (アドミッションポリシーを満たす人材かどうかの検証)	在 学 中 (カリキュラムポリシーに則って学修がすすめられているかどうかの検証)	卒業時・卒業後 (ディプロマポリシーを満たす人材になったかどうかの検証)
機関 レベル	・入学試験 ・新入生アンケート	・休学率 ・退学率	・学位授与数 ・就職率 ・卒後アンケート
教育課程 レベル	・入学試験 ・入学前教育	・GPA ・留年率 ・学内模擬試験 ・学修ポートフォリオ	・卒業率 ・資格取得率 ・国家試験合格率
科目 レベル		・授業アンケート ・成績評価(単位取得状況) ・履修放棄率	